地域・在宅看護論実習要項

Ⅰ．目的、目標

目的　：　地域で生活しながら療養する人々、あるいは障害をもちながら生活する人々とその家族を理解し、地域・在宅看護における知識・技術・態度を修得する。

目標　１．地域・在宅看護を必要とする人とその家族を理解する。
２．個人の価値観や生活背景を尊重した看護が考えられる。
３．地域での暮らしを支援するための制度や多職種連携の必要性、訪問看護師の役割がわかる。

実習目標および行動目標	実習内容
１．地域・在宅看護を必要とする人とその家族を理解する。 １）療養する人とその家族の生活状況が述べられる	①　療養者の日常生活状況 （毎日の過ごし方、生活習慣、生活の自立度役割） ②　療養者の家族背景 （人数、年齢構成、同居・別居の有無、家業等） ③　療養者と家族の在宅療養に対する思い （健康に対する関心・理解力、現在の状況確認、家族との人間関係等） ④　療養者の生育歴 ⑤　家族の生活状況 （生活リズム、就業状況等） ⑥　住宅環境（間取り、広さ、段差の有無等） ⑦　地域環境
２）療養する人とその家族の健康状況を述べられる	①　療養者の既往歴、現病歴、治療方針および治療内容、症状、体力、心理的状態等 ②　家族の健康状況 （疾患や障害の有無、治療状況、症状、心理的状態等）
３）家族の役割が述べられる	①　家族の役割、家族の介護状況 （家族成員の役割と対処能力、対処意欲、リーダーシップ能力、介護交代の有無等）
４）対象に必要な社会資源について述べられる	①　社会的資源の活用状況
２．個人の価値観や生活背景を尊重した看護が考えられる １）療養者と家族の健康状態を把握し、看護の必要性をアセスメントできる	①　療養者に必要な援助について検討する ②　在宅療養している方を受け持ち、在宅看護計画を立案する
２）生活状況に合った看護計画が立案できる	
３）安全・安楽な援助方法について述べることができる	①　在宅における日常生活援助 ②　在宅における特有な看護技術 （在宅酸素療法、在宅人工呼吸器、膀胱留置カテーテル、経管栄養法、中心静脈栄養法、褥瘡管理、ストマケア）

３．地域での暮らしを支援するための制度や他職種連携の必要性、訪問看護師の役割がわかる	
１）地域の中の社会資源が述べられる	①　介護老人保健施設の役割・機能 ②　ディサービスセンターの役割・機能 ③　認知症高齢者グループホームの役割・機能 ④　介護保険による社会資源 ⑤　障害者総合支援法による社会資源 ⑥　滝川市での福祉サービス
２）保健医療福祉のそれぞれの役割と連携の必要性が述べられる	①　地域保健の役割 ②　医療の役割 ③　福祉の役割
３）訪問看護師の役割が述べられる	①　在宅に向けての指導 ②　退院調整 ③　療養相談 ④　自立（安らかな死）に向けての援助 ⑤　社会資源の活用の助言 ⑥　家族の精神的な支えと健康状態の把握 ⑦　医師や他の医療従事者間の調整 ⑧　地域の他職種との連携
４）退院調整における多職種の役割と連携の必要性が述べられる	①　地域医療室の役割 ②　退院調整における多職種の役割と連携の必要性

Ⅱ．時　　期　：　3 年前・後期

Ⅲ．時　　間　：　2 単位　90 時間

Ⅳ．実習場所　：　滝川市立病院訪問看護　69 時間
ディサービスセンターすずかけ　7 時間
老人保健施設ナイスケアすずかけ　7 時間
グループホームコスモス　※6 時間
グループホーム土筆　※6 時間

※　グループホームコスモス、グループホーム土筆はどちらか１施設の実習になります。

Ⅴ．実習方法

１．訪問看護実習

１）実習の進め方

①　学生 2～3 名で 1 事例受持ち、実習訪問看護計画を立案する。受持ち事例やその他の訪問看護をうけている家庭を訪問し在宅看護の理解を深める。訪問看護以外の時間は情報収集などを行う。

②　退院調整会議見学、退院調整会議シミュレーションを行い多職種連携について理解を深める。

・退院調整における紙上事例をもとに、退院調整に関わる職種とその役割を調べる。
・学生が多職種の役割になり、紙上事例について退院調整会議シミュレーションを行う。
・社会福祉士から感想をもらい、多職種の役割や連携について理解を深める。

③　社会資源学習会
学びを深めたい社会資源について各自、資料作成（YOU-TUBE 等も活用）し発表する。メンバーは事前に配布資料を読み、質問をして学びを共有する。
④　カスタマーサクセス看護「地域・在宅看護論」「社会保障制度」の分野を学習する。

2）実習記録
①　受持ち事例の在宅看護計画：(情報共有は口頭にてグループ内で行なってよいが、アセスメント・課題の整理・行い整える内容は各自で行う）なるべく実践し、結果を記入する。
②　受け持ち対象以外、受け持ち対象（ケアプラン立案前）の日々の記録　※別紙の様式を使用
③　上記②以外の日々の記録：実習で学んだことを記載する。
④　退院調整会議・退院調整会議シミュレーションでの学び、感想をレポート用紙 1 枚程度にまとめ、実習終了後、翌日に提出する。
※2 部印刷し 1 部はレポートにとじ、1 部は社会福祉士に提出する。
⑤　社会資源の個人学習
⑥　受け持ち療養者の看護を通して学んだことを実習終了後、翌日に提出する。
⑦　実習記録の最終提出期限は、実習終了後 3 日までとする。(土日は除く）

3）その他
①　服装はズボン、ポロシャツ等（Gパン、ジャージは禁止）で靴下を着用する。ネームプレートを付け、清潔感があり相手に不快な印象を与えない服装で髪はまとめる。タオル、筆記用具、ハンカチ、ポケットティッシュ、替えの靴下持参し、雨天時に対応できるようにする。
②　訪問宅への交通機関は、病院の公用車に同乗することを同意している場合は、病院の公用車を利用する。同意していない場合は、自転車または公共交通機関を利用し現地集合とする。
③　動物アレルギー、そばアレルギーなどがある場合事前に報告すること。
④　医学書院、在宅看護論「在宅看護論における実習の手引き」を読み実習に臨むこと。

2．ナイスケアすずかけ
1）実習の進め方
①　実習期間 1 日（全員)。老人保健施設のオリエンテーションをうける。老人保健施設で行われる援助を見学または指導者と一緒に行い、理解を深める。
2）実習記録
①　オリエンテーション内容、実施・見学した内容、感想をレポートにまとめ表紙をつける。
提出期限～見学後 1 週間以内。
3）事前学習
①　介護老人保健施設についての事前学習を行う。レポート提出期限～老人保健施設実習の前日。
4）その他
①　服装は上記同様、上靴を持参する。貴重品は持参せず、金銭は最小限とする。
②　移動は公的交通機関を使用し、現地集合、現地解散。

3．ディサービスセンターすずかけ
1）実習の進め方
①　実習期間 1 日（1～2 名ずつ)。ディサービスセンターのオリエンテーションを受ける。指導員の指示のもとに援助を行い、理解を深める。
2）実習記録
①　オリエンテーション内容、実施・見学した内容、感想をレポートにまとめ表紙をつける。
提出期限～見学後 1 週間以内。
3）事前学習
①　ディサービスセンターの事前学習を行う。レポート提出期限～ディサービス実習日の前日。
4）その他
①　服装は上記同様、上靴を持参する。貴重品は持参せず、金銭は最小限とする。
②　移動は公的交通機関を使用し、現地集合、現地解散。

４．グループホームコスモス・グループホーム土筆

１）実習の進め方

① 実習期間１日（2～4 名ずつ)。グループホームのオリエンテーションを受ける。指導員の指示のもと生活環境の整え方や援助を見学し、理解を深める。

２）実習記録

① オリエンテーション内容、実施・見学した内容、感想をレポートにまとめ表紙をつける。提出期限～見学後１週間以内。

３）事前学習

① グループホームの事前学習を行う。レポート提出期限～グループホーム実習日の前日。

４）その他

① 服装は上記同様。上靴不要。貴重品は持参せず、金銭は最小限とする。

② 移動は公的交通機関を使用し、現地集合、現地解散。

Ⅵ. カンファレンス

実習開始前にオリエンテーションを受ける。随時、ミニカンファレンスを行い訪問事例の理解を深める。実習終了時は最終カンファレンスを行う。

Ⅶ. 健康管理について

自己の健康管理に気をつけ、発熱や風邪症状、下痢、嘔吐などの症状がある場合適切に対処すること。